

質 疑 回 答 書 (設 計 図 書)

令和6年7月1日

工事名 京都工芸繊維大学（松ヶ崎）2号館北棟等屋上防水改修工事

No.	質 疑 事 項	回 答
1	図番A-05部分詳細にて、受水槽基礎断面図Fの記載がありません。どちらにありますでしょうか。	図番A-05断面詳細図Fをご確認ください。
2	PH階庇、パラペット笠木は既存ウレタン塗膜防水となっておりますが、平場、立上りも同様の既存ウレタン塗膜防水のうえ、ウレタン塗膜防水（X-2）の改修での認識でよろしいでしょうか。	図番A-05についてPH階庇は改修範囲外としており、PH階平場及び立上りは既存ウレタン塗膜防水のうえ高圧洗浄後下地調整の上ウレタン塗膜防水（X-2）としてください。
3	立上り部納まりについて既存防水層撤去～下地処理となっておりますが、接着工法ではなく機械固定工法（S-M2）の仕様でお間違いないでしょうか？ 機械固定工法で行う場合端部にも塩ビ鋼板を取付ことになるのですが、通常イ型の水切りを使用する場合、接着工法の端末部の押さえ金物として取付その上部をシール処理するものと認識しております。 図面を見る限り立上り端部に塩ビ鋼板を図示するものもなく、また撤去及び下地処理とあるので機械固定工法にするメリットであるコスト削減、漏水危険の排除が反映されていないように思われますがいかがでしょうか？ また機械固定工法と接着工法では使用する塩ビ鋼板の種類や数量が大きく異なりますので金額にも大きく響きます事を考慮してください。	図面の通りとし、詳細の納まりについては現場で協議します。
4	図書館の立上り図面には水切りテープの記載はありますが、アルミ水切りの記載がありません。明細にあるアルミ水切りの項目は間違いでしょうか？ もし明細が正なら通常、ウレタン塗膜防水（汚れの出る作業）を先行するため、水切りテープが最終作業のアルミ水切り取付、シール打設作業に干渉するため、作業手順を反対にしなければなりません。 そうすると仕上がったシート上での塗膜防水作業になるため、余計な養生費等の費用がかかってきますがいかがいでしょうか？	図書館の立上りについては図面を正としてください。（図番A-05参照）
5	参考見積用数量表及び設計図書一式に外部足場・保護シートとありますが、これは昇降用足場のことでしょうか？もしくは全体に足場を設置しないといけないのでしょうか？	昇降用足場のこととしてください。
6	以下余白	